

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修

研修会	開催日	集合場所	研修会場	現地研修場所
北海道 (八雲町)	9月5日(火)～ 6日(水)	八雲駅前 (函館本線)	八雲町公民館	八雲町生薬栽培協議会 13:50-15:40 (110分)
東北 (盛岡市)	10月2日(月)～ 3日(火)	いわて沼宮内駅前 (東北新幹線)	いわて県民情報 交流センター アイーナ	岩手薬草生産組合 13:00-15:00 (120分)
関東 (高崎市)	10月10日(火)～ 11日 (水)	上毛高原駅 (上越新幹線)	白銀ビル貸し会 議室	群馬県昭和村、沼田市近 郊のトウキ圃場 13:00-15:00 (120分)
北陸 (福井県 高浜町)	9月14日(木)～ 15日(金)	若狭高浜駅前 (JR西日本小浜 線)	城山荘	高浜町 薬用作物圃場 13:00-15:00 (120分)
東海・近 畿 (奈良県 宇陀市)	10月30日(月)～ 31日(火)	榛原駅前 (近鉄大阪線)	美榛苑	宇陀市内トウキ圃場 13:00-15:00 (120分)
中四国 (高知市)	12月20日(水)～21日(木)	佐川駅前 (土讃線)	高知県立県民 文化ホール	ヒューマンライフ土佐 13:00-15:00 (120分)
九州 (人吉市)	12月6日(水)～ 7日(木)	人吉駅 (肥薩線)	ホテル サン人 吉	あさぎり薬草合同会社 13:00-15:00 (120分)

※ 集合場所～現地研修～研修会場はバスで移動します

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員等

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 八雲町公民館（北海道八雲町）

実施時期： 9月5日(火)～6日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月5日 (火)	13:20- 13:50 (30分)	13:20現地集合 場所：八雲駅(JR北海道) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:50- 15:40 (110分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「八雲町生薬栽培協議会」のトウキほ場の現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:40- 16:10 (30分)	移動(バス利用) →八雲町公民館		事務局	
	16:30- 17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	平手 豪巳	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班班長
9月6日 (水)	9:00-11:00 (120分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する(カンゾウ、シャクヤク、ハトムギ等)	菱田 敦之	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター
	11:10- 12:10 (60分)	[講義] (株)夕張ツムラが進める薬用作物の国内生産拡大の取り組みについて(仮題)	生薬原料の安定供給を目指した、(株)夕張ツムラの薬用作物栽培(取扱品目の拡大)、生薬原料の加工、保管等、生薬国内調達の取り組みを紹介する。	吉村 宏昭	(株)夕張ツムラ 取締役栽培部長
	12:10- 13:10	昼 食			
	13:10- 14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 東北会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員等

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： いわて県民情報交流センター アイーナ(岩手県盛岡市)

実施時期： 10月2日(月)～3日(火)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月2日 (月)	12:40-13:00 (20分)	12:30現地集合 場所:いわて沼宮内駅(JR東日本) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00-15:00 (120分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「岩手薬草生産組合」における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00-16:10 (70分)	移動(バス利用) →盛岡市内研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	松葉 知浩	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班事務局
10月3日 (火)	9:00-11:00 (120分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する。(オウギ、オタネニンジン、トウキ等)	柴田 敏郎	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター筑波研究部
	11:10-12:10 (60分)	[講義] 秋田県仙北市における薬用作物栽培の取り組みについて(仮題)	仙北市薬草生産組合を主体とする薬用作物生産に関する地域・生産者の取り組みを紹介する。	三浦 正紀	仙北市農林部 総合産業研究所
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交流会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 関東会場

**研究実施主体:** 薬用作物産地支援協議会  
**受講対象者:** 普及指導員、営農指導員、市町村職員等  
**研修目的:** 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上  
**受講定員:** 20名  
**研修実施場所:** 白銀ビル貸し会議室（群馬県高崎市）  
**実施時期:** 10月10日(火)～11日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月10日 (火)	12:40-13:00 (20分)	12:40現地集合 場所:上毛高原駅(JR東日本) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00-15:00 (120分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	群馬県「利根沼田農業協同組合」のトウキ圃場における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00-15:50 (50分)	移動(バス利用) →高崎市内研修会場		事務局	
	16:10-17:10 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	高林 耕平	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
10月11日 (水)	9:00-11:00 (120分)	[講義] 地域で有望な薬用作物の栽培技術について(仮題)	地域で有望なミシマサイコ、キキョウ、トウキ等の栽培技術について解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター筑波研究部
	11:10-12:10 (60分)	[講義] 長野県における薬用作物生産の体制整備について(仮題)	長野県における薬用作物栽培の取り組みについて紹介する。	矢島 崇広	長野県農政部園芸畜産課 野菜・特産係 主査
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 北陸会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員等

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 城山荘(福井県大飯郡高浜町)

実施時期： 9月14日(木)～15日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月14日 (木)	12:40-13:00 (20分)	12:50現地集合 場所:若狭高浜駅前(JR西日本小浜線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00-15:00 (120分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	東京生薬協会が行っている薬用植物の国内栽培に対する支援事業のうち、高浜町における栽培技術指導の現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	小谷 宗司	信州大学特任教授、公益社団法人東京生薬協会 理事
	15:00-15:30 (30分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	15:50-16:50 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会 生薬委員会委員長
9月15日 (金)	9:00-11:00 (120分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	東京生薬協会が行っている薬用植物の国内栽培に対する支援事業を通じた栽培技術指導から、薬用作物の国内栽培における要点と課題を解説する。	小谷 宗司	信州大学特任教授、公益社団法人東京生薬協会 理事
	11:10-12:10 (60分)	[講義] 高浜町における薬用作物の取り組み(仮題)	高浜町における薬用作物栽培を通じた地域振興の取り組みを紹介する。	田原 文彦	高浜町 産業振興課 課長補佐
	12:10-13:10	昼 食			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉 会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員等

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 美榛苑(奈良県宇陀市)

実施時期： 10月30日(月)～31日(火)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月30日 (月)	12:40-13:10 (30分)	13:00現地集合 場所:榛原駅前(近鉄大阪線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:10 (100分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	奈良県宇陀市のトウキほ場における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	豊田 毅 東 和浩	奈良県東部農林振興事務所 課長 宇陀市農林商工部産業企画課 課長補佐
	15:10-15:30 (20分)	移動(バス利用) →宇陀市内研修会場		事務局	
	15:50-16:50 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	白鳥 誠	日本漢方生薬製剤協会 生薬委員会委員長
10月31日 (火)	9:00-11:00 (120分)	[講義] 数種の薬用作物の栽培技術について	トウキをはじめ大和地方でつくられてきた薬用作物について解説する。	中西 準治	内閣府・地方創生推進事務局 地域活性化伝道師 元 近畿大学東洋医学研究所 植物センター
	11:10-12:10 (60分)	[講義] 宇陀市における薬用作物生産の取り組みについて(仮題)	宇陀市における薬用作物栽培を通じた地域振興の取り組みを紹介する。	東 和浩	宇陀市農林商工部産業企画課 課長補佐
	12:10-13:10	昼 食			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 中四国会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員等

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 高知県立県民文化ホール(高知県高知市)

実施時期： 12月20日(水)～21日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
12月20日 (水)	12:35- 13:00 (25分)	12:25現地集合 場所:佐川駅前(土讃線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00- 15:00 (120分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「ヒューマンライフ土佐」における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00- 16:15 (75分)	移動(バス利用) →高知市内研修会場		事務局	
	16:30- 17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	高林 耕平	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
12月21日 (木)	9:00-11:00 (120分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について(仮題)	四国で主に栽培されているミシマサイコ以外にも、国内栽培の期待が高い薬用作物が種々存在する。これらの栽培技術について解説する。(シヤクヤク、ジュウヤク、トウキ等)	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園 研究室 教授
	11:10- 12:10 (60分)	[講義] 山口県における薬用作物栽培の取り組みについて(仮題)	山口県における薬用作物栽培の取り組みについて紹介する。	安永 真	山口県農林総合技術センター 農業技術部 園芸作物研究室 果樹栽培グループ 専門研究員
	12:10- 13:10	昼食			
	13:10- 14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

## 薬用作物産地支援 栽培技術研修 九州会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員等

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： ホテル サン人吉(熊本県人吉市)

実施時期： 12月6日(水)～7日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
12月6日 (水)	12:30- 13:00 (30分)	12:20現地集合 場所:人吉駅前 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00- 15:00 (120分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「あさぎり薬草合同会社」における現地研修で、収穫時期の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00- 15:30 (30分)	移動(バス利用) →人吉市内研修会場		事務局	
	15:50- 16:50 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	高林 耕平	日本漢方生薬製剤協会 生薬国内生産検討班
12月7日 (木)	9:00-10:30 (90分)	[講義] シャクヤクとカンゾウの栽培技術について(仮題)	需要が高く、国内で実用栽培されているシャクヤクと、実用段階ではないが、需要が極めて高く、九州でも試作栽培されているカンゾウの栽培技術について解説する。	林 茂樹	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター種子島研究部
	10:40- 12:10 (90分)	[講義] 薬用作物の国内栽培における要点(仮題)	東京生薬協会が支援している薬用植物国内栽培事業の取り組み事例をもとに、栽培作業の基本から、地域特有の条件に合わせた品目の絞り込み、栽培技術等を解説する。	高橋 宏之	公益社団法人東京生薬協会 栽培指導員
	12:10- 13:10	昼 食			
	13:10- 14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	